

# 見てみよう！歴史地震記録と

## 旬のあいち < 2月 >

### ◆大島八幡社

所在地：西尾市吉良町大島

交通：名鉄西尾線「吉良吉田」駅 西約 2.5km

矢作川は、長野県の木曾山脈に発し、愛知県の西三河地方を大きく蛇行しながら、三河湾へと注ぐ大河であり、古くは御川(みかわ)とも呼ばれていました。「御川」とは「美川」の意であり、「三河国」の地名も矢作川の流れる地域を指して付けられたものといわれています。

この矢作川はもともとは現在の矢作古川の場合が本流でしたが、徳川家康の命による治水工事により、矢作新川が掘削され、現在の矢作川が本流となり、旧河道が矢作古川と呼ばれるようになりました。(この治水工事に関しては、「忠臣蔵」につながる徳川家と吉良家の長年の確執と闘いがあるとも言われています。)

岡崎平野を中心に平野のイメージが強い西三河の三河湾周辺地域ですが、地形図を見ると低地は矢作川及び矢作古川河道沿いが中心で、大部分が台地や丘陵地、山地となっており、明治用水を始めとする用水が整備されています。

この矢作古川の下流に大島八幡社があります。かつての矢作川だった矢作古川の流域は、上流部から運ばれた土砂による沖積平野が発達した低地で、高潮や台風の影響を受けやすい地域であり、下流に位置する大島八幡社は、たびたび高潮や台風の影響を受けてきました。境内には明治22年高潮、昭和28年13号台風の記念碑が建っています。



また、地震による津波でも大きな被害が発生してきた場所で、嘉永7(1854)年の安政東海・

南海地震の際の被害は、大島八幡社所蔵の棟札に「本社拝殿寺庫裏村方家五拾四軒其外物置等二至迄数多古ろび同日大津波古今前代未聞之事二候 殿様より転家へ為御見舞と金壹分宛被下メ金拾貳両貳分」(八幡社社殿や浄泉院の庫裏、村の家屋54軒などが倒壊し、大津波が押し寄せた/藩主から見舞金が下された)と記されています。また、本殿はその後、昭和20(1945)年の三河地震で倒壊しています。(棟札の記録については「大嶋のあゆみ(大島歴史編集委員会、平成21年)」で見ることができます。)

ところで、矢作古川の東隣を流れる矢崎川沿いに金蓮寺というお寺があります。この金蓮寺は、寺伝によると文治2(1186)年に源頼朝と三河国守護の安達九郎盛長により建てられた三河七御堂の一つといわれ、暦応3(1340)年に足利尊氏が現在の場所に移し、青蓮山金蓮寺と号したといわれています。敷地内には、源頼朝により文治2年に建立された(様式からするとそれより若干新しい)弥陀堂が現存しており、県下では最古の木造建築物として昭和30年に国宝に指定されています。

この弥陀堂は、1340年の移転以来、大島八幡社が経験したような浸水を免れていることとなります。愛知県が平成26年5月に公表した被害予測調査の浸水想定においても、弥陀堂は辛うじて浸水を免れる結果となっています。(大島八幡社は2~3m程度の浸水です。)愛知県防災学習システム(<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>)の「防災マップを見る」で浸水想定を見ることができますので、西三河地域の地形と併せてご覧ください。



棟札



◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こること実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



## ◆大島八幡社の周辺には…

### ●<sup>しょうほうじ</sup>正法寺（津なみの標、高潮標）

所在地：西尾市吉良町乙川

交通：名鉄蒲郡線「吉良吉田」駅南東約1.5km

門前には高潮被害の水面を示す碑が2基建てられており、宝珠院の門前には、明治22（1889）年の高潮の惨状を伝右側が明治22（1889）年の高潮被害の水面を記した「津な

みの標」、左側が昭和28年13号台

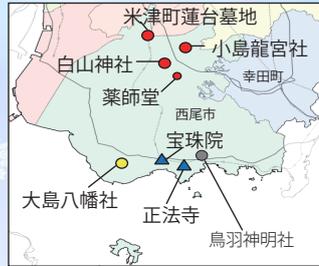
風の高潮被害の水面を記した「高

潮標」です。

右の碑が約

20cm高くなっ

ています。



### ●<sup>ほうしゅいん</sup>宝珠院（<sup>かいしやうきねんひ</sup>海嘯記念碑、<sup>さんがいばんれいひ</sup>三界萬霊碑）

所在地：西尾市吉良町吉田石池

交通：名鉄蒲郡線「吉良吉田」駅南東約1.5km

海嘯記念碑は明治28（1895）年に

吉田伝蔵荒子に建てられ、その後、現

在地に移転しています。この碑には、

約4.6mの海水が来たこと、家や舟等

が流されたこと、堤防がほとんど流

されたことなどが刻まれています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

## ★鳥羽の火祭り

大同年間（806～809）の創建と伝えられる鳥羽神明社において、毎年旧暦1月7日（現在は2月第2日曜日）に行われる神事「火祭り」は、天下の奇祭として有名です。

「神木」を茅で包み、それを青竹60本で囲み藤で巻き上げ、根元に1年を表す「十二縄」を巻いた高さ16尺の「すずみ」と呼ばれる大松明を2基、境内に設置し、西の「福地」、東の「乾地」からそれぞれ選ばれた「神男」が火打石により点火します。燃えさかる「すずみ」の中に、古い幟（のぼり）で作った胴着と頭巾で身を包んだ奉仕者（通称「ネコ」）



たちが頭から水をかぶり飛び込み、神木と十二縄を競って取り出し御前に供えます。

その結果によって、その年の天候と豊凶や作物の出来具合を占う神事です。

## 2月のあいちの花

平成27年2月のあいちの花はデンドロビウムです。

デンドロビウムは東南アジアを中心に世界各地に広く分布している多年草で、主に原種と近縁種との交配種が観賞用に生産されており、用いた原種が系統名になっています。胡蝶蘭に似たかわいらしい花を咲かせるデンファレは、デンドロビウム・ファレノプシス系の略で、デンドロビウム・ファレノプシスという原種と近縁種との交配種からなります。



## ●ブレイクタイム●

### ♪西尾の潮干狩り

西尾市では3月から8月まで、三河湾に面した8カ所で潮干狩りを楽しむことができます。海のきれいな三河湾産のアサリはぼっちゃり型で甘みがあり、知る人ぞ知る春の味覚として有名です。

干潮の2時間程前から干潮までが潮干狩りに最適ですので、潮干狩りが楽しめる時間帯をご確認の上、お出かけください。

なお、8カ所のうちのひとつ、東幡豆海岸の前島（右図の②）では、普段は海によって隔られている島が、干潮時には干上がり岸とながる「トンボロ現象」というめずらしい現象を見ることができます。



西尾市の潮干狩り場 MAP / 西尾市観光協会 HP より  
<http://www.240kanko.com/>

◆この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年2月）